

## 【平成20年度と平成21年度の比較】

貸借対照表	20年度(A)	21年度(B)	前年比(B)-(A)
資産合計	1369.6億円	1333.6億円	↓ 36.0億円
負債合計	245.6億円	245.9億円	↑ 0.3億円
純資産合計	1124.0億円	1087.7億円	↓ 36.3億円
行政コスト計算書	20年度(A)	21年度(B)	前年比(B)-(A)
経常費用	176.5億円	190.5億円	↑ 14.0億円
経常収益	26.4億円	21.3億円	↓ 5.1億円
純行政コスト	150.1億円	169.2億円	↑ 19.1億円
純資産変動計算書	20年度(A)	21年度(B)	前年比(B)-(A)
純資産増加	193.5億円	191.7億円	↓ 1.8億円
純資産減少	184.5億円	208.4億円	↑ 23.9億円
当期変動額	9.0億円	▲16.7億円	↓ 25.7億円
資金収支計算書	20年度(A)	21年度(B)	前年比(B)-(A)
経常的収支	29.7億円	11.0億円	↓ 18.7億円
資本的収支	▲13.3億円	▲8.9億円	↑ 4.4億円
財務的収支	▲17.7億円	▲4.8億円	↓ 12.9億円
当期収支額	▲1.3億円	▲2.7億円	↓ 1.4億円
人口一人当たりの	20年度(A)	21年度(B)	前年比(B)-(A)
資産	325万円	295万円	↓ 30万円
負債	58万円	55万円	↓ 3万円
行政コスト	36万円	38万円	↑ 2万円

### 貸借対照表からわかること!

平成21年度は、市立病院の民間移譲により、建物の資産などが減りました。

### 行政コスト計算書からわかること!

人や物にかかるコストの抑制に努めたものの、定額給付金などにより経常費用が増えたため、昨年度より市民の皆さまに多くの行政サービスを提供したこととなりました。

### 純資産変動計算書からわかること!

市税などの収入が減りましたが、行政サービスにかかるコストが増えたため、将来世代への蓄えが減ってしまいました。

### 資金収支計算書からわかること!

市税などの収入が減ったことで経常的収支は昨年度に比べマイナスとなり、また、収入の減を補うために借入を昨年度より多くしたため、財務的収支もマイナスとなりました。

### 財務諸表からわかる高浜市の現状

新地方公会計制度に基づく主要な財務指標のひとつである「純資産比率」で見ましょう。

純資産比率とは市が持つ資産のうち、正味の資産、(住民の持分)の割合を示します。これは民間企業でいう「自己資本比率」にあたります。

$$\text{「純資産比率}=\text{純資産合計} \div \text{総資産合計} \times 100\text{」}$$

平成21年度 連結貸借対照表より

$$\text{純資産額 } 1,087.7 \text{ 億円} \div \text{資産合計 } 1,333.6 \text{ 億円} \\ \times 100 = 81.561 \dots \text{約} 81.6\%$$

これまでの世代が負担した純資産比率は、81.6%(将来世代へ先送りした負担は18.4%)です。全国平均が6割から7割といわれておりますので、高浜市は良い水準を保っており、財政の健全性は保たれているという見方ができます。

### 【連結行政コスト計算書】

現役世代にどれだけの行政サービスを提供したのかを表しています。

民間企業における「損益計算書」にあたります。

<b>経常費用(A)</b>	<b>190.5億円</b>
①人にかかるコスト……………	31.6億円 (職員給料など)
②物にかかるコスト……………	23.0億円 (消耗品、減価償却費など)
③経費・業務関連コスト…………	32.8億円 (業務委託、利息の支払など)
④保険給付・補助など…………	103.1億円 (介護・国保給付費・団体などへの補助金)
<b>経常収益(B)</b>	<b>21.3億円</b>
使用料・手数料など……………	21.3億円 (行政サービスの利用者が負担する手数料など)
<b>純行政コスト(B)-(A)</b>	<b>169.2億円</b>